

特 集

患者サポートセンターについて

岡山赤十字病院 総合内科

宮下 雄博

(令和元年10月1日受稿)

患者サポートセンターは、岡山赤十字病院が急性期医療を担う病院として入退院支援や地域とのシームレスな連携の強化を行うことを目的として平成30年7月に設立された。即ち、地元住民の皆様が当院を核として、医療機関や医療福祉施設などを利用しながら、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう支援することである。

主たる業務は、まず患者の皆様のお病気や治療によって生ずる生活上の問題について相談をうけることから始まる。例えば医療費の支払い、入院中の生活費の確保、福祉サービスや福祉制度に対する疑問など、諸々の心配事や不安を払拭し、安心して入院治療に専念できる環境整備を整えていく。また入院時には看護師、薬剤師、社会福祉士、栄養士などが連携し患者基本情報を聴取したうえでアセスメントを行い必要な指導を適切に行っている。入院加療後退院が決まると退院支援が始まる。多職種からの指導をはじめとして、退院後の介護、退院後に利用できる病院や施設などの選定、また在宅療養や通院が必要な場合は訪問看護、訪問診療の提供などもサポートしていく。そのためには、患者および患者家族への医療情報の提供として当院からの情報だけでなく、地域の医療機関等との勉強会や研修会の開催等においても情報提供を行っている。

当院とかけつけ医や地域の医療機関との連携は極めて重要で、円滑な紹介や逆紹介を行うことでより充実した質の高い医療の提供ができると考えている。以前から当院で行っている病診連携研修会の充実により、当院ではどのような医療を提供できるか連携している医療機関に提示している。このことで連携医療機関からも当院が最適と判断される場合はスムーズに患者紹介ができるメリットがあると考えている。研修会は岡山市内の

連携施設を中心に行っていたが2年前より県南東部の医師会にも働き掛け、その範囲は拡大している。また逆に連携医療機関を招いた研修会も行っている。連携先の医療機関の機能など知ることは今後の逆紹介を適切に行うことにおいて必要な事である。さらに、地域の医療機関と良好な連携を図るためには所謂「顔の見える連携」が重要である。当院では年に1回、地域連携懇親会を開催している。この会では病院の紹介などの内容は極力少なくし、懇親主体で連携施設からの忌憚のない意見をお聞きすることで、より開かれた連携を期待するものである。

その他、当センターでは他部署と連携を取りながら看護に関する相談、がんに関する相談、薬に関する相談などを行っている。また、他施設からの受診予約受付、セカンドオピニオンの予約受付、晴れやかネットの開示・閲覧手続、開放病床登録手続きなど、その業務内容は幅広い。



患者サポートセンターの組織図

